NPO法人 大谷石研究会創立10周年記念事業
未来に響け『石の声』

NPO法人 大谷石研究会
更田　邦彦

去る9月24日、NPO法人大谷石研究会創立10周年記念事業「未来に響け『石の声』」と題してイベントを開催。当日は天気に恵まれ、夏の暑さも一段落したところで、多くの方々にご参加いただきました。

イベント構成は、午前の部と午後の部とに分け、午前の部は参加者に大谷の魅力を再発見していただこうと、徒歩や自転車での大谷地区散策。そして午後の部は、大谷の過去・現在・未来を参加者とともに検証していこうと、パネルディスカッションを行ないました。

午前の部は散策

それぞれ散策マップを手に、徒歩や自転車で巡っていただくことで、あまり知られていない大谷地区の魅力を再発見してもらうことが狙い。当日は、大谷石産業、池田緑商店にご協力いただき、採石場の見学会も行うことができました。

大谷石産業採掘場「石の里　希望」では、小林社長の解説を聞いた後、参加者約63名が順次地下50ｍの竪坑を恐る恐る降りていったのですが、再度地上に荒い息をして上がってくると、口々に「良かったー！」の一言。この迫力ある空間体験は、まさに大谷の魅力再発見となりました。

■イベントポスター

■「石の里　希望」の竪坑上から

■参加者は皆小さな空を見上げる

■すぐに熱々のピザが焼上がります

それから忘れてはいけないのが、お昼にふるまわれた、石釜で焼いた特性ピザ！

■NHKのインタビューを受ける東海大の兼子君

一方、徒歩のガイドツアーでは、地元の長森さんの解説を聞きながら大谷の名所を巡りました。こちらも初秋の大谷をたっぷり満喫いただきました。

なお、当日のNHKの番組「首都圏ニュース645」に、竪坑見学とガイドツアーの様子が、「地元NPO法人による大谷石の魅力をPRする催し」として2分ほど紹介されました。今後も、大谷石研究会のイベントが、いろいろなメディアで広く紹介されることを期待します。

徒歩や自転車で大谷を巡り、程良い運動の後、外で食べる焼きたてピザは最高です。もちろん「パリッとおいしい！」と大評判。

今後、大谷の「御当地フード」として完成されることも期待したいです。

午後の第1部は、大谷石の魅力再確認

午後の部は城山地区市民センター1階メインホールで約50名の参加者で1時から開始しました。

最初に記念式典として、小野口理事長からこれまでの会の歩みについて話していただき、引き続き本会創設者のお一人でもある、伊藤利光先生から祝辞をいただきました。

小野口理事長は、本会には多岐に亘るたくさんの会員がおり、そしてその会員により多角的な活動が行われてきたことを、会の歴史を振り返りながら話しました。伊藤先生のお話（経験談）からは、大谷が日本の中でも大変魅力的な場所であることが、他の地域での活動との比較により明らかにされました。

今後の活動においては、行政を含めたいろいろな機関と連携していくべきであること、しかしそこでは、様々な障害が多々あることもご説明いただきましたが、本会の歴史と展望において、実に貴重なお話であったと思います。

プログラムは次に、午後の部第1部「大谷石・過去ー現在ー未来」と題したパネルディスカッションへと場面が変わり、三人のパネルレクチャーから始められました。

■午後の部の会場風景

一人目のパネラーは、本会理事で建築家の小西敏正先生。「大谷石と大谷石建築の魅力」というテーマのスライドレクチャーをしていただきました。採石場を含む大谷地区の魅力とそれを用いた過去の名建築などを、歴史的経過とともに分かりやすくご説明いただきましたが、過去の大谷石建築のすばらしさを再認識することで、大谷石の可能性も大いに感じることができました。

二人目のパネラーは、本会顧問で建築史家の岡田義治先生。「大谷石と建築家」というテーマでお話しいただきました。「屏風岩」（2棟の石蔵建築）が大谷において重要な役割を果たしてきたこと、これまで多くの偉人たち（建築家や職人）が、大谷石に関わってきたことで、大谷石の魅力が増幅されつつ世の中に広く伝わってきたことなどご教授いただきました。

そして三人目のパネラーは、不肖この更田（東海大学建築学科非常勤講師・建築士）でありましたが、私の祖父更田時蔵が設計した「旧大谷公会堂の調査報告と今後の展望」について話させていただきました。旧大谷公会堂の保存・再利用につきましては、本会活動目標の一つとして小野口理事長始め、多くの方々にご尽力いただいておりますが、なかなか進展の兆しが見えないでいます。（会報11号＜3＞参照）しかしながら、この建物の価値を広く伝えていくためにも、調査レポートをまとめることは重要なことであり、平成20年に実施した調査報告を、今回の機会に改めていただいた次第です。

■旧大谷公会堂を用いたイベントフライヤー

当建物の保存・再利用の展望につきましても、個人的な提案をさせていただきましたが、本会でもいろいろな案が検討されています。これからも検証を重ね、宇都宮市や地元とのコンセンサスを得ながら本会としてベストな計画を立てられるよう今後も尽力していきたいと思っています。

午後の第2部は、大谷石と大谷の未来

「大谷石と大谷の未来について大いに語ってもらいましょう」という企画のもと、初めに（有）高橋佑知商店専務の高橋卓さんに「大谷石の新しい利用方法と新工法」についてお話しいただきました。大谷石の新しい使い方や様々な工法、地震対策にもなる進化した石材用接着剤、さらに、大谷石の成分である「ゼオライト」の除湿、水質浄化など様々な効果についてご説明いただきましたが、建材のみならず、高橋さんの様々な商品開発のチャレンジを通して、大谷石の可能性を皆さんも実感できたのではないかと思います。

学生が語る大谷の展望

続いては、東海大学と宇都宮大学の大学院生らによる「大谷の魅力とその展望」についてのプレゼンテーション。東海大から2名（兼子博之君・平野悠子君）と宇大から3名（小野村一弥君・梅岡翔吾君・松浦達也君）に、壇上に上がっていただき、それぞれ約15分ずつプレゼンしていただきました。

東海大チームの提案は、外部から訪れる人達の視点に立ち、大谷地区の魅力を一番楽しんでもらう手段として、レンタサイクルなど自転車を用いることがベストという判断のもと、点在している石のストックヤードをカフェや野菜市場などとして、また、採石場跡の大きな野外スペースを「コミュニティパーク」として再利用し、それらをサイクリングコースに取り込んで、街全体をつなげていこうというものでした。

一方、宇大チームは、市内の石蔵のある住宅約50軒の調査を元に、それぞれの利用方法や配置を分析していくつかに分類し、その応用として石蔵を用いた様々な建築を計画して、宇都宮らしい新たな街並や石蔵の街独自のコミュニティを創造していこうというもの。

■プレゼンテーション風景

いずれの提案も、現実的で説得力のあるものだったと思います。会場からも、それぞれの提案に対して、「街づくりを企画計画していく上で県外の人を呼び込むべき・・」「街づくりは20年ビジョンで計画すべき・・」「子供からお年寄りまで広い世代に親しまれる計画とすべき・・」といった鋭い意見や感想が投げかけられておりました。

以上、3時間半に渡る午後の部もほぼ予定通り進み、最後に和田昇三先生から閉会の言葉をいただいて、本イベントはめでたくお開きとなりました。なかなか時間調整が難しく、参加者の皆さんとのディスカッションの時間が十分に取れなかったことが悔やまれますが、本会にとりまして、記念すべき充実した1日になったと思われます。

私自身も、企画から実行委員として参加させていただき、大変勉強になりました。今後もこのような機会のお役に立てられればと思っております。

最後に、本イベントにご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げるとともに、大谷の未来に向けてプレゼンをしてくれた宇大と東海大の大学院生3名の参加所感をご紹介して、ご報告とさせていただきます。

発表した学生の声

◉今回、私たちは宇都宮市中心にある大谷石蔵の卒業論文の調査を元に、新たな蔵の活用の提案を行った。敷地内の蔵と母屋を下屋で連続させて、蔵と生活を近づける案や、街に点在する蔵を移築して蔵の街並を作る案である。

私を含め、宇都宮大学生にも他県からの出身者が多く、調査を行う前は宇都宮の歴史をあまり感じることは無かった。しかし、多くの大谷石蔵に街の歴史を感じたという経験がある。そのような大谷石に魅せられた人たちが集まって、大谷石の特性や大谷石建造物の保存など多くの意見を聞ける場はとてもおもしろいと感じた。

同時に、今後の「大谷石の未来」は、もっと多くの人に大谷石の魅力を伝えることで開かれていくものだと思った。

（宇都宮大学　小野村一弥）

※以前から課題等でまちづくり等の提案をさせて頂く機会は多々ありましたが、その場合、どうしても案を提案することが最終目的となってしまい、本来行うべきである地元の方の反応を伺えないことをとても残念に思っていました。

しかし、先日の大谷石研究会創立10周年記念イベントでは、地元の方の前で提案を発表し、多くの専門家の方にご意見を頂くなど、貴重な経験をさせて頂きました。

また、提案をする上で数回大谷へサーベイしたこと、微力ながら今回の大会をお手伝いさせて頂いたことで、私自身も大谷地区・大谷石の沢山の魅力を発見することが出来ました。

大谷石研究会の皆様、ご意見を下さった先生方、発表を聞いてくださった地元の方々にとても感謝しております。ありがとうございました。

（東海大学 平野悠子）

❋今回の記念大会で大谷地区の魅力を沢山感じることが出来ました。竪坑見学では、自然の中、石を伐りだして掘り進み、その結果出来上がる空間は自然と人工が混じった空間で、大谷石の圧倒的な存在感を感じました。NHKにインタビューをされたのも良い思い出です。また、大谷石の窯ではピザ焼き体験をさせていただき、格別のおいしさとともに地域の方々の温かさも感じることができました。

発表会では、私たちが考える大谷の活性化計画を発表させていただきましたが、私たちの大谷に対する熱い気持ちを少しでも感じていただけたら幸いです。

さらに今回の記念イベントでは、ポスターも作らせていただき、このイベントを通してお世話になった沢山の皆様に対して感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な経験をさせていただき、本当に有難うございました。

（東海大学　兼子博之）